熊市歯発第 13 号
令和 7 年4月17日

会 員 各 位

熊本市歯科医師会
会長 渡 辺 猛 士
（学術委員会扱い）

令和 7 年度 熊本市歯科医師会第 1 回学術講演会のご案内

「治る歯髄、治らない歯髄 ― 歯髄保存の科学と臨床 ―」

時下、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、この度、滋賀県長浜市でご開業の泉歯科医院 院長 泉 英之先生をお招きし、下記日程にて講演会を行います。

マイクロスコープによる拡大診療の進歩により、今までは保存できなかった歯髄が保存できるようになりました。しかし確実な処置を行うには泉先生がおっしゃる歯髄の見極めが重要になると思います。

今回の講演会では、歯髄保存におけるポイントを解りやすく解説していただきます。マイクロスコープがなくても、必ず何かしらのヒントが得られる講演会になると思います。明日からの臨床に役立つ内容ですので、是非ご聴講ください。

参加の際はFAXにて申し込み後、当日は日歯研修カードをお持ちください。

日 時 ： 令和 7 年 5 月 31 日（土） 15:00～18:00

場 所 ： 熊本県歯科医師会館 3階市会議室

講 師 ： 泉歯科医院　院長　泉 英之 先生

FAX申込書 **申し込み締め切り日：令和7年5月26日（月）**

熊本市歯科医師会事務局行（学術委員会） FAX：344−9778

歯科医院名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

会員氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　歯科医師（　　）名、スタッフ（　　）名

【抄録】

多くの歯科医師は、「できれば歯髄を保存したい」という思いを持って日々の臨床に取り組んでいるのではないでしょうか。若手の歯科医師であれば直感的に、経験を積んだ歯科医師であれば、有髄歯の予後の良さや無髄歯のトラブルの多さを実感しながら、その重要性を認識しているかもしれません。

私の臨床では、多くの患者が長期にわたりメインテナンスに通われており、う蝕や歯周病による歯の喪失は少ないものの、失活歯の歯根破折には日々苦慮しています。この経験からも、歯髄保存の重要性を強く実感しています。

しかし、「MTA で直接覆髄を試みたがうまくいかなかった」「歯髄を保存しようとしたが激しい痛みが生じ、結局抜髄せざるを得なくなった」「不確実な治療は避けたい」などの経験から、歯髄保存に消極的になってしまうこともあるでしょう。その背景には、成功率の低さや失敗の原因が不明確であることが挙げられます。また、歯髄保存に積極的な歯科医師の間でも、治療方法に関して多様な意見があり、確立された標準治療が存在しないのが現状です。

歯髄保存が成功しない理由は、大きく二つに分けられます。一つは、治療前の診断が誤っており、「治らない歯髄」を保存しようとしてしまうケース。もう一つは、治療技術の問題で、「治るはずの歯髄」を死なせてしまうケースです。

本講演では、これらの課題に対し、科学的根拠に基づき「治る歯髄」と「治らない歯髄」の違いを整理し、直接覆髄・間接覆髄の臨床におけるポイントをお伝えします。また、近年注目されている歯根完成歯の全部断髄についても触れたいと思います。

本講演が、日常臨床に役立つ実践的な内容となり、皆様が自信を持って歯髄保存治療に取り組む一助となれば幸いです。

【講師略歴】

1974 年 富山県富山市に生まれる
2000 年 日本大学松戸歯学部卒業
2000 年 日本大学松戸歯学部歯科補綴学第Ⅲ講座
2004 年 西本歯科医院
2021 年 泉歯科医院

〔所属学会〕

・日本自家歯牙移植・外傷歯学研究会
・国際外傷歯学会（International Association of Dental Traumatology）
・米国歯内療法学会（American Association of Endodontists）
・日本ヘルスケア歯科学会

〔著書〕

・コンポジットレジンと審美修復．クインテッセンス出版、2012 年（共著）
・リクッチのエンドドントロジー．クインテッセンス出版、2017 年（監訳）
・検証 MTA．クインテッセンス出版、2018 年（共著）
・ペリオドントロジー＆ペリオドンティクス（前編・後編）．クインテッセンス出版、2018 年,2019 年（共著）
・治る歯髄 治らない歯髄 歯髄保存の科学と臨床．クインテッセンス出版、2018 年 他多数